

後

ハニ

江苏工业学院图书馆
藏书章

集

卷の二十八

鏡花全集 卷二十八 第二十八回配本(全二十九卷)

定價二千六百圓

昭和十七年十一月三十日 第一刷發行
昭和五十一年二月二日 第二刷發行

著 者 泉 鏡 太 郎

發行者 岩 波 雄 二 郎

〒101 東京都千代田區一ツ橋二丁目五番五號
株式會社 岩 波 書 店

電話(〇三)六五一四二

印刷 三陽社 製本 松岳社

落丁本・亂丁本はお取替いたします

目次

未定稿

龍膽と撫子 續篇 (大正十二年二月—九月) 一

雜記

愛と婚姻	(明治二十八年五月)	二四二
御殿坂下お笑草	(明治二十九年一月)	二四六
百物語	(明治二十九年八月)	二四八
戀愛詩人	(明治三十年一月)	二五一
ありのまゝ	(明治三十年三月)	二五二
雜句帖	(明治三十年八月・十月・十一月—三十二年二月)	二五四
醜婦を呵す	(明治三十年八月)	二六一
赤インキ物語	(明治三十年九月—三十二年二月)	二六四

竹屋の渡	(明治三十年十一月)	二五五
飛花落葉	(明治三十一年三月—四月)	二九八
丸雪小雪	(明治三十二年五月・七月)	三一
春狐談	(明治三十三年五月)	三八
狸囃子	(明治三十三年六月)	三五
一葉の墓	(明治三十三年十月)	三八
手帳四五枚	(明治三十五年九月)	三〇
逗子だより	(明治三十五年九月)	三七
繪はがき	(明治三十五年十月)	三八
草あやめ	(明治三十六年七月)	三九
白屈菜記	(明治三十六年十月)	四三
紅葉先生逝去前十五分間	(明治三十六年十二月)	四七
かながき水滸傳	(明治三十八年三月)	四九
小鼓吹	(明治三十八年七月)	五七
北國空	(明治三十八年十月)	五九

仲の町にて紅葉會の事 (明治三十八年十二月)	三七四
かな自在 (明治三十九年七月)	三八二
逗子より (明治三十九年八月)	三八七
知つたふり (明治四十年三月—四月)	三九一
あひく傘 (明治四十年七月)	三九六
曙山さん (明治四十年九月)	四〇七
かしこき女 (明治四十年十一月)	四一三
蘆の葉釣 (明治四十一年十月)	四一六
新富座所感 (明治四十一年十一月)	四三一
怪力 (明治四十二年六月—七月)	四三九
喜多八のために (明治四十二年十月)	四四九
一寸怪 (明治四十二年十月)	四五二
雁われの秋茄子は所帶持の珍味 (明治四十二年十月)	四五六
師走の夜は (明治四十三年一月)	四五九
初めて紅葉先生に見えし時 (明治四十三年二月)	四五九

遠野の奇聞 (明治四十三年九月・十一月) 四六一

一 銚子 (明治四十四年一月) 四七一

一 景話題 (明治四十四年六月) 四七四

豆 名 月 (明治四十四年十月) 四八三

松翠深く蒼浪遙けき逗子より (大正四年七月) 四八四

花見風俗 (大正五年四月) 四八五

夏目さん (大正六年一月) 四八五

縁 日 (大正六年一月) 四八八

煙管を持たしても短刀位に (大正七年三月) 四九一

寸情風土記 (大正九年七月) 四九三

私 の 事 (大正九年七月) 五〇六

みなわ集の事など (大正十一年八月) 五〇七

入 子 話 (大正十一年十月) 五二二

獻立小記 (大正十四年三月) 五二六

淳さん小話 (昭和二年七月) 五三一

健ちゃん大出来！	(昭和二年十一月)……………	五四
淳さんと一酌	(昭和三年八月)……………	五三
雨のゆふべ	(昭和七年十一月)……………	五四
うどんの岡惚れ	(昭和九年五月)……………	五四四
雑 録		

起居動作	(明治二十八年五月)……………	五四九
禮式所感	(明治二十八年五月)……………	五五二
當世女裝一斑	(明治二十八年十月)……………	五五五
寢姿百形	(明治三十七年九月)……………	五五五
謹 寫	(明治四十一年二月)……………	五六八
ことば、人魚	(大正十二年二月?)……………	五七〇
『金色夜叉』小解	(昭和二年六月)……………	五七四
『泉鏡花篇』小解	(昭和三年九月)……………	五八二
『斧琴菊』例言	(昭和九年三月)……………	五九一

弔 詞

紅葉先生弔詞	(明治三十六年十二月)	五九
芥川龍之介氏を弔ふ	(昭和二年八月)	六〇

報 條

二番目狂言は	(明治四十五年一月)	六三
畫博堂報條	(大正二年五月)	六四
妖怪畫展覽會告條	(大正三年七月)	六四
若松家挨拶	(大正七年五月)	六六
魚徳開店披露	(大正九年三月)	六六
山本特製海苔報條	(昭和六年一月)	六八

尺 牘

『新派俳家句集』の序を求められて	(明治三十年十一月)	六一
------------------	------------	----

色彩の嗜好	(明治三十三年四月)	六一
短冊さしあげ申候	(明治三十六年十月)	六二
手紙一通	(明治三十八年八月)	六三
鳴濤館より	(明治三十九年五月)	六四
夏期學生の讀物	(明治三十九年七月)	六五
雅號の由來	(明治四十一年十一月)	六五
八月のある日	(明治四十二年八月)	六六
千鳥さん	(明治四十三年三月)	六六
なつかしい人だつたのに	(大正七年七月)	六九
私の好きな夏の料理	(大正七年八月)	六九
『尾崎紅葉集』について	(昭和二年三月)	六〇

序題

『めぐる泡』序	(明治三十五年五月)	六三
『田毎かゞみ』序	(明治三十六年一月)	六三

『聖人乎盜賊乎』序	(明治三十六年二月)	……	六四
『新選怪談集』序	(明治四十年三月)	……	六五
『四國だより』はしがき	(明治四十一年七月)	……	六六
『諸國童謡大全』序	(明治四十二年九月)	……	六六
『お伽花束』序	(明治四十二年九月)	……	六七
『怪談會』序	(明治四十二年十月)	……	六七
『袂かゞみ』に題す	(明治四十三年三月)	……	六八
『窓の四季』に題す	(明治四十三年五月)	……	六九
『デモ畫集』序	(明治四十三年十月)	……	六九
『鏡花叢書』自序	(明治四十四年三月)	……	七〇
『數奇傳』序	(明治四十五年五月)	……	七一
序	(大正四年五月)	……	七二
『文章日』題	(大正五年十一月)	……	七三
『文章日』題	(大正六年十一月)	……	七三
『八笑人』序	(大正七年六月)	……	七三

『朧夜の頃』序 (大正七年六月)	六三四
『中央文學』及び『文章日記』題 (大正八年八月)	六三五
『泉鏡花集』序詞 (昭和三年九月)	六三五
『美人畫全集』に題す (昭和六年十月)	六三六
『ゆかりの園』序 (昭和六年十二月)	六三七
『築地川』序 (昭和九年十月)	六三九

廣 告

『通夜物語』廣告 (明治三十四年三月)	六四三
『三枚續』廣告 (明治三十四年十二月)	六四三
『黒百合』廣告 (明治三十五年二月)	六四四
『田毎かゞみ』廣告 (明治三十五年十二月)	六四四
『風流線』廣告 (明治三十七年十一月)	六四五
『續風流線』廣告 (明治三十八年八月)	六四五
『伊勢之卷』廣告 (明治三十八年十月)	六四六

『なゝもと櫻』廣告	(明治三十九年五月)	六四六
『愛　　火』廣告	(明治三十九年十二月)	六四七
『婦系圖』廣告	(明治四十一年二月)	六四七
『白　　鷺』豫告	(明治四十二年十月)	六四八
『戀女房』廣告	(大正二年十二月)	六四八
『愛染集』廣告	(大正五年十月)	六四九
『山海評判記』作者より	(昭和四年六月)	六五〇

談　　話

小説　文　體	(明治三十一年二月)	六五三
いろ　扱　ひ	(明治三十四年一月)	六五三
創作苦心談	(明治三十四年三月)	六五〇
瀧の白糸について	(明治三十五年一月)	六六二
柳のおりうに就て	(明治三十五年十一月)	六六二
おもて二階	(明治三十八年一月)	六六四

眞 情	(明治三十九年八月)……………	六七二
女優力枝評	(明治三十九年十二月)……………	六七三
處 女 作 談	(明治四十年一月)……………	六七四
おばけずきのいはれ少々と處女作	(明治四十年五月)……………	六七七
たそがれの味	(明治四十一年三月)……………	六八三
ロマンチックと自然主義	(明治四十一年四月)……………	六八四
そ の こ ろ	(明治四十一年六月)……………	六九二
予 の 態 度	(明治四十一年七月)……………	六九三
むかうまかせ	(明治四十一年十二月)……………	六九八
文士と酒、煙草	(明治四十二年一月)……………	七〇一
小説に用ふる天然	(明治四十二年一月)……………	七〇二
會話、地の文	(明治四十二年一月)……………	七〇三
座 談 よ り	(明治四十二年三月)……………	七〇五
談 話	(明治四十二年三月)……………	七〇七
舊作の回顧	(明治四十二年四月)……………	七〇八

三越趣味に就て	(明治四十二年四月)……………	七二
怪異と表現法	(明治四十二年四月)……………	七三
歩くことばかり思つて歩く	(明治四十二年四月)……………	七五
小説の地の文の語尾	(明治四十二年四月)……………	七七
文章の音律	(明治四十二年五月)……………	七七
藝術は予が最良の仕事也	(明治四十二年五月)……………	七九
一度は慫うした娘の時代	(明治四十二年六月)……………	七三
文藝は感情の産物也	(明治四十二年六月)……………	七三
何が故に文藝革新會に入りしか	(明治四十二年六月)……………	七八
事實の根柢、想像の潤色	(明治四十二年七月)……………	七三〇
描寫の眞價	(明治四十二年七月)……………	七三三
望みある俳優	(明治四十二年七月)……………	七三五
夏の夕	(明治四十二年八月)……………	七三七
紅葉先生の玄關番	(明治四十二年九月)……………	七三九
身だしなみの善い婦人と悪い婦人	(明治四十二年九月)……………	七四三

事實と着想	(明治四十二年十月)	七四
今の女も時代的	(明治四十二年十一月)	七四
滑稽趣味	(明治四十二年十二月)	七五〇
舊文學と怪談	(明治四十二年十二月)	七五一
女の保護色	(明治四十三年一月)	七五二
京都の印象	(明治四十三年一月)	七五六
平面描寫に就きて	(明治四十三年三月)	七五七
文藝と東京	(明治四十三年三月)	七六一
お花見雜感	(明治四十三年四月)	七六三
わんぱく物語	(明治四十三年五月)	七六五
文章上達の順序	(明治四十三年七月)	七六五
作物の用意	(明治四十三年十一月)	七七〇
草雙紙に現れたる江戸の女の性格	(明治四十四年四月)	七七二
丸で形なしと御承知あるべし	(明治四十四年六月)	七七八
江戸の女	(明治四十四年七月)	七七八

萬斛の涼味	(明治四十四年七月).....	七八二
能樂座談	(明治四十四年九月).....	七八四
昔の浮世繪と今の美人畫	(明治四十四年十月).....	七八〇
三つの色々	(明治四十五年二月).....	七八五
女の所から手紙	(明治四十五年二月).....	八〇一
東京の女と大阪の女	(明治四十五年三月).....	八〇六
情景相伴ふ名物の美	(大正二年九月).....	八〇九
華やかな思出	(大正三年一月).....	八二一
水際立つた女	(大正三年二月).....	八二三
古典趣味の行事	(大正四年七月).....	八三八
自然と民謡に	(大正四年十月).....	八一九
中庸のハ	(大正六年七月).....	八二二
新春閑	(大正七年二月).....	八二五
堀の	(大正七年二月).....	八二六
	(大正八年三月).....	八三〇